

# アゼルバイジャン（2025年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在アゼルバイジャン日本国大使館](#)

1. 2024年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

## 1.2024年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
回数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
0	0	0	1	1	72	2	10	164	1	4	38	4	15	274

（注）2024年度日本語教育機関調査は、2024年9月～12月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

## 2.日本語教育の実施状況

### 全体的状況

#### 沿革

2000年9月、バクー国立大学で日本語講座が新設され、同大学には2001年からJFにより日本語専門家が派遣されていたが、2020年に中断、2023年に派遣が再開されている。現在、同大学はアゼルバイジャン共和国内における日本語教育普及の中心的な役割を担っている。

2009年9月、教育大臣の発案から、3つの中等教育機関において日本語正規授業が開始され、学習者数が大幅に増えた。また、2011年9月よりアゼルバイジャン言語大学において、地域研究・国際関係学部の外国語学科履修科目として日本語講座が開設され、日本語が専門的に学べる高等教育機関はこれで2つとなった。さらに、同大学では2013年より社会人向けの一般コースも開設された。

高等教育機関以外でも、日本文化やサブカルチャーに興味を持ち、日本語の学習を始めた若い世代の独習者を中心に、「Yapon.az」という私塾でサークル活動が行われている。現在は、独習者だけではなく、日本語講座

を持つバクー国立大学、アゼルバイジャン言語大学の学生も参加するようになっている。そのほか、バクー経済大学（ADA）においては学生有志による「さくらクラブ」が開設され、日本語を含む東アジアの文化や言語を楽しむイベントが定期的に催されている。

また、近年では、SNS（特に Instagram）を通じた個人によるオンライン日本語教授や、バクー市内の多言語学習センター（塾形式）に日本語コースが設置されるなど、従来の教育機関の枠を超えた学習形態も見られるようになっている。ただし、先述のとおり、オンラインベースであるため、これらの全体像を把握することは難しい。

## 背景

1991年に独立後、混乱期を経て国内情勢が安定したことにより、1995年以降、日本を含め西側資本が流入した。これに伴い、日本に関する情報も増え、対日関心が高まった。一方で、パンデミック（2020年）により多くの日本企業がバクー撤退となって以来、その後は復活しておらず、日本語の習得が就職機会に繋がりにくくなっている。

## 特徴

日本語教育が行われている大学や中等教育機関はバクー市内に集中している。パンデミック中（2020年）に開始したオンライン学習の影響によるものか、初学年齢の低下傾向が見られる。

2024年度調査では、学習者数は274名（2021年度339名）と減少が見られるが、これは主に中等教育機関における学習者数の減少によるものである。一方で、Instagram等のSNSを通じた個人によるオンライン日本語教授や、多言語学習センター（塾形式）における日本語コースの開設など、教育機関調査では把握できない学習形態が広がりを見せている。また、日本での就職や特定技能ビザ取得を目的とした学習者への支援を行う機関も存在するなど、学習目的の多様化も進んでいる。

## 最新動向

バクー国立大学主催で「バクー日本語弁論大会」が毎年行われている。大会参加者はバクー国立大学、アゼルバイジャン言語大学の学生のみであったが、2016年より、大学で日本語を専攻していない大学生も参加できるようになった。2017年からは大学生以下の部門が新設され、アゼルバイジャン国内の日本語学習者の多くが大会に参加できるようになっている。なお、受賞対象となるのは大学生部門のみ。大会優勝者はモスクワで行われる「モスクワ学生日本語弁論大会」に参加する権利を得るが、モスクワ大会でも、2016年度4位、2017年度3位と好成績を取っていた。しかし、2020年以降、モスクワ大会は中断したままとなっている。

なお、2024年度のバクー弁論大会は、バクー市がCOP29（国連気候変動枠組条約第29回締約国会議）のホスト都市となったため、2025年3月に延期開催された。2025年度は通常スケジュールに戻り、第24回バクー日本語弁論大会が11月にバクー国立大学講堂で開催された。

2023年のJF 専門家派遣再開に伴い、新たな日本語学習活動も展開されている。2024年には「小嘶クラブ」（2月～4月、オンライン、動画撮影まで実施）、「Feel度 Walk」（2025年9月～11月、写真とイラストを組み合わせた活動、12月に日本食材店で経過展を開催）など、専門家主導の活動が実施された。これらの活動については、専門家派遣終了後も現地教師が継承する意向を示している。

また、大使館広報文化室で月例開催されている「日本語会話クラブ」への参加希望者も増加しており、2025年には参加希望者が45名を超える回も見られるなど、学習者の交流機会への関心の高まりが見られる。

民間語学教室である「Yapon.az」は、5名以上の教師を雇用するなど活発に活動を展開している。大学で日本語専攻する現役学生の中にも、補習的に Yapon.az に通う者がおり、特に日本語能力試験(JLPT)受験前には利用者が増加する傾向にある。

## 教育段階別の状況

### 初等教育

日本語教育は実施されていない。

### 中等教育

2004年秋、バクー市内の中等教育機関1校（エリタル・ギムナジア）でバクー国立大学の学生が教師となって課外科目として日本語の講座が開始された。その後、2009年10月より、バクー市内3か所の中等教育機関（エリタル・ギムナジア、テレギ・リセ、第225番学校）が試験校となり、第二外国語の選択必須科目として正規授業が開始された。ただし、エリタル・ギムナジアでは2013年9月より、テレギ・リセでは2014年9月より機関の事情により休止しており、225番学校のみで日本語教育が実施されている。当地の初等・中等教育機関は1年生から11年生（6歳から17歳）までの一貫校であり、225番学校では日本語教育は、高等部に相当する8年生から11年生において実施されている。以前は20名以上の学習者がいたが、第二外国語としてアラビア語も選択肢に加わったことなどにより学習者数が減少している。また、現在学習している生徒たちは5年生時に日本語学習を開始したクラスであるが、それ以降新規クラスの開講には至っていない。また、バクー以外では、日本語教育を行っていたイスマイリ県1番学校だが、パンデミックにより閉鎖され、以後再開されていない。

一方、2024年度からは、バクー市内の私立学校である Dunya 学校において、6・7年生を対象とする日本語授業が新たに開講された。同校はアゼルバイジャン言語大学の卒業生が教鞭を執っており、石川県志賀町の高校と交流関係もある。2025年には両校間でそれぞれ2名の交換留学が実施されるなど、活発な交流が行われている。私立学校における日本語教育においては予算面での柔軟性があることから、今後の日本語教育普及の新たな可能性として注目される。

### 高等教育

2017年10月現在、主専攻として日本語が学べるのは、バクー国立大学、アゼルバイジャン言語大学の2大学であり、そのうちバクー国立大学のみ修士課程も開設している。なお、バクー国立大学とアゼルバイジャン言語大学は、現在、「言語学」における日本語日本文学専攻ではなく、「国際関係学」における地域研究としての「日本語専攻」となっているためか、日本語授業は週5コマ(1コマ95分)から週3コマ程度に減少し、国際関係科目の履修が増加している。これにより、国際関係科目の単位取得に苦勞し日本語学習がおろそかになる学生が見られる一方で、大学での日本語授業に不足を感じ、民間の語学教室である Yapon.az などに通う熱心な学生も存在するなど、学習者の二極化傾向が見られるようになっている。

### その他教育機関

- 日本語会話クラブ

2005年よりバクー国立大学日本語講座がバクー日本人会及び日本大使館の協力を得て開始され、2012年10月からはアゼルバイジャン言語大学日本語講座の学生も参加するようになった。月1回、大使館広報文化室で在留邦人と日本語学習者との会話の場を設けている。具体的には、毎回、アイスブレイクとし

てゲームや簡単な活動を 15～20 分行った後、その日にテーマを発表、邦人の人数に分かれて班を構成し、話し合っている。2025 年 1 月現在、毎回の参加人数は、学習者が 30～40 名程度、ボランティア邦人は 6～9 名程度となっており、主にバクーの主要教育機関からの参加者が多い。さらに、2023 年秋ごろからは、個人学習者の参加も増えつつある。

- アゼルバイジャン言語大学日本センター

2013 年より社会人向けの一般コースが開設された。講師はアゼルバイジャン言語大学日本語講座の講師が兼任している。

- 上記のセンター以外にも民間の語学教室である Yapon.AZ が日本語講座を開講しており、10 代から 40 代の日本語や日本文化への関心が高い学習者 60 名ほどが学んでいる。また、日本人を招いたサークル活動も年に数回開いている。
- さらに、大学の日本語専攻学生の中にも補習目的で Yapon.AZ に通う者が見られる。特に日本語能力試験受験前には増加する。
- アゼルバイジャンでは、SNS、特に Instagram を利用した情報発信が盛んであり、バクー国立大学やアゼルバイジャン言語大学の卒業生を中心に、個人によるオンライン日本語教授を行う者も存在する模様。ただし、その全体像の把握は困難である。
- 先述のとおり、バクー市内には英語をはじめとする欧州言語など、多言語学習できる民間の学習センター(塾形式)が複数存在し、その中には日本語コースを設置している機関もある。ただし、必ずしもバクー国立大学やアゼルバイジャン言語大学の卒業生など日本語を習得した者が教えているわけではなく、提供される日本語の質には課題も見られる。
- このほか、日本での就職や特定技能ビザ取得を支援する機関も存在し、オンライン日本語教授とともに、来日を目的とする学習者への支援を行っていると思われる。

### 3.教育制度と外国語教育

#### 教育制度

##### 教育制度

4-5-2 制。

学習開始年齢は 6 歳または 7 歳。

初等・中等教育機関は、「Orta məktəb (オルタメクテブ)」と呼ばれ、日本の教育制度における小中高一貫校にて 9 年または 11 年(高等教育進学希望者)の教育が行われている。1 年生から 4 年生までの 4 年間は初等部、5 年生から 9 年生までの 5 年間は中等部、10 年生と 11 年生の 2 年間は高等部に当たり、そのうちはじめの 9 年間は義務教育期間。

高等教育機関は、普通大学(4 年)、コレジ(2 年または 3 年)、その他、技術学校、商業学校など。

##### 教育行政

科学教育省が管轄する。

#### 言語事情

公用語はアゼルバイジャン語であり、政府の公的文書などはすべてアゼルバイジャン語で表記が義務付けられている。一方、旧ソ連の構成国であった影響で、ロシア語で授業提供を行う公立の Orta məktəb（オルタメクテブ）も多く存在するなど、複言語社会である。

## 外国語教育

すべてのオルタメクテブで、外国語教育は法律により5年生から始められる。主として英語、ドイツ語、フランス語の中から選択必修する。しかし、多くの学校では、實際上、英語教育が2年生から行われている。

ロシア語で教育を行うオルタメクテブでは、1年生からロシア語で教育を行い、アゼルバイジャン語授業は週2回行われる。他方、アゼルバイジャン語で教育を行うオルタメクテブでは、ロシア語の扱いは教育機関により異なり、必修とは限らない。なお、大学では中等教育までロシア語で教育を受けてきた学生向けのロシア語セクターと、主にアゼルバイジャン語で教育を受けてきた学生向けのアゼルバイジャン語セクターの2クラスが各学年に設置されている。

## 外国語の中での日本語の人気

バクーやその近隣など、都会の30%以上の初中等学校には、ロシア語イマージョン教育がアゼルバイジャン語教育と並行して行われており、ロシア語セクターと呼ばれる。生徒は学校入学時にどちらかのコースを選択する。初・中等教育では第一外国語として英語を学び、第二外国語としてはフランス語やドイツ語などの欧州言語を学ぶ学校が多い。高等教育では、バクー国立大学とアゼルバイジャン言語大学が国際関係学における地域研究として日本語専攻を位置づけて以降、アゼルバイジャン語セクターの学生はトルコ語を、ロシア語セクターの学生はアラビア語を第二外国語の必修科目として履修している。

また、学校教育以外でも英語の人気は高く、街なかでも英語塾のような教室の看板をあちこちで見かける。そのような中、文化やポップカルチャーなどに興味関心を持って、日本語、中国語、韓国語といった東アジア言語を学び始める者も多い。日本語については、従来は学習できる機関が限られていたが、近年では学習形態が多様化している。

## 大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われていない。

## 4. 学習環境

### 教材

#### 初等教育

日本語教育は実施されていない。

#### 中等教育

第 225 番学校	『ひらがな・カタカナ練習帳 かなマスター』アークアカデミー教材作成委員会(専門教育出版)、『こどものにほんご1』西原鈴子監
-----------	---

	修（スリーエーネットワーク）、『みんなの日本語 初級Ⅰ』スリーエーネットワーク（スリーエーネットワーク）、『BASIC KANJI BOOKⅠ』加納千恵子ほか（凡人社）。
Dunya 学校	『みんなの日本語 初級Ⅰ』など、適宜初級教材を使用。

## 高等教育

バクー国立大学：	初級	『ひらがな・カタカナ練習帳 かなマスター』（前出）、『みんなの日本語 初級Ⅰ、Ⅱ』、『Kanji Look and learn』坂野永理ほか（ジャパンタイムズ）。副教材は、『みんなの日本語 初級で読めるトピック 25』、『みんなの日本語 聴解タスク 25』など、適宜初級教材を使用。
	中級	『日本語中級カルテット1』坂本正監修（ジャパンタイムズ）、『KANJI IN CONTEXT Workbook vol.1』アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター（ジャパンタイムズ）。副教材は、適宜中級教材を使用。
	上級	主教材は、『ニューアプローチ中上級日本語[完成編]』小柳昇（日本語研究社）、『KANJI IN CONTEXT Workbook vol.1』（前出）。副教材は、適宜中級・上級教材、または生教材を使用。
アゼルバイジャン言語大学	初級	主教材は、『ひらがな・カタカナ練習帳 かなマスター』（前出）、『みんなの日本語 初級Ⅰ、Ⅱ』（前出）、『BASIC KANJI BOOKⅠ、Ⅱ』（前出）。副教材は、『みんなの日本語 初級で読めるトピック 25』（前出）、『みんなの日本語 聴解タスク 25』など、適宜初級教材を使用。
	中級	主教材は、『ニューアプローチ中級日本語[基礎編]』（前出）、『KANJI IN CONTEXT Workbook vol.1』（前出）。副教材は、適宜中級教材を使用。

## その他教育機関

『みんなの日本語 Ⅰ、Ⅱ』（前出）がよく使用されている。

## マルチメディア・コンピューター

### 中等教育

日本語教育にマルチメディア・コンピューターは使用していない。

## 高等教育

アゼルバイジャン言語大学では学生が自由に使用できるパソコンがあり、自習用などに使用されている。2017年にはバクー国立大学の、2022年にはアゼルバイジャン言語大学の日本語学科教室が草の根文化無償資金協力により改装され、ノートパソコン、プリンター、プロジェクターなどが設置された。また教室内でインターネットも使用できるようになった。

## その他教育機関

Yapon.az では 初級レベルでは『みんなの日本語初級1・2』（前出）、『Basic Kanji』（前出）、中級レベルでは『新完全マスター』シリーズ友松悦子（スリーエーネットワーク）、『耳から覚える日本語能力試験』シリーズ 安藤栄里子（アルク）、『増補改訂版・総まとめ』シリーズ 佐々木仁子（アスク）、上級レベルではこれに加えて『日本語の森 JLPT この1冊で合格する』シリーズ（日本語の森）を使用している。

## 5. 教師

### 資格要件

#### 初等教育

初等教育機関では、学士号取得が望ましいが、大学最終学年から採用が可能。

#### 中等教育

中等教育機関では、学士取得が望ましいが、大学最終学年から採用が可能。

#### 高等教育

大学で教える場合は、基本的に修士号以上の学位が必要とされている。また、修士課程以上の院生であれば、学部授業のための非常勤講師として採用が可能。

## その他教育機関

特に規定なし。大学で日本語を専攻した卒業生や、英語教師などが教えているケースが見られる。

## 日本語教師養成機関（プログラム）

日本語教師養成を行っている機関、プログラムは確認されていない。

## 日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用は確認されていない。

## 教師研修

現職の日本語教師対象の研修は確認されていない。-

## 現職教師研修プログラム（一覧）

特になし。

## 6.教師会

### 日本語教育関係のネットワークの状況

日本語能力試験実施のため、2016年度より『日本語能力試験実施委員会』が設置されている。委員会はバクー国立大学講師、アゼルバイジャン言語大学講師、その他訪日経験者を中心として構成されている。

### 最新動向

特になし。

[教師会・学会一覧へ](#)

## 7.日本語教師派遣情報

### 国際交流基金からの派遣

#### 日本語専門家

バクー国立大学 1名

### その他からの派遣

なし

## 8.シラバス・ガイドライン

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムは確認されていない。

## 9.評価・試験

### 評価・試験の種類

2016年12月より日本語能力試験が開始された。大学在学者に限らず、大学の卒業生、独習者なども受験している。受験者数の増加に伴い、2019年7月以降、日本語能力試験の実施回数は年1回（12月）から年2回（7月及び12月）に増加された。2025年7月および12月の受験者数はそれぞれ150名程度、これは国内の日本語学習者数の50%以上に相当する。

## 10.日本語教育略史

<b>1995 年</b>	私立アジア大学に日本語学科設立（2000 年度に同学科閉鎖）
<b>2000 年 9 月</b>	バクー国立大学東洋学部アラビア語学科において日本語学科設置
<b>2004 年 9 月</b>	バクー国立大学東洋学部に修士課程が開講
<b>2004 年</b>	バクー国立大学東洋学部アラビア語学科内日本語講座が極東言語学科日本語講座に名称変更 イルヤス・エフェンディフ記念エリタル・ギムナジアで日本語講座（課外科目）開始
<b>2005 年</b>	日本大使館にて日本語会話クラブ開催 （バクー国立大学・バクー日本人会共催）
<b>2007 年 9 月</b>	私立ハザル大学にて日本語授業（選択必修科目）を開始
<b>2009 年 9 月</b>	中等教育機関において日本語正規授業（選択必須科目）開始
<b>2009 年 10 月</b>	アゼルバイジャン国立経済大学にて、課外活動で日本語教育が開始 バクー市内の中等教育機関（エリタル・ギムナジア、テレギ・リセ、第 225 番学校）、で、日本語教育開始
<b>2010 年</b>	ハザル大学での日本語教育が休止
<b>2011 年 9 月</b>	アゼルバイジャン言語大学地域研究・国際関係学部に、日本語講座開設
<b>2013 年</b>	アゼルバイジャン言語大学日本センターに、社会人向け一般コース開設 エリタル・ギムナジアの日本語授業が休止 イスマイリ県 1 番学校で日本語教育開始
<b>2014 年</b>	アゼルバイジャン国立経済大学及びテレギ・リセでの日本語授業が休止
<b>2016 年 12 月</b>	日本語能力試験開始
<b>2019 年 7 月</b>	日本語能力試験の実施回数が年 1 回（12 月）から年 2 回（7 月及び 12 月）に増加。
<b>2020 年</b>	イスマイリ県 1 番学校の日本語授業が休止

2024 年

Dunya 学校で 6,7 年生を対象とする日本語教育を開始

## 情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。  
なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

**Eメール：kuniketsu@jpf.go.jp**

(メールを送る際は、全角@マークを半角@マークに変更してください)